



ケダゴロ | 今後の予定

- ▼『ビコーズカズコース』静岡公演 <「Choreographers 2022」>
2023年3月2日（木） 会場：静岡市清水文化会館マリナート 小ホール

下島礼紗 | 今後の予定

- ▼【滞在共同制作／振付・構成・演出・出演】
Giuliano Campo × Shimojima Reisa
2023年2月1日～2月13日 会場：ロンドンデリー（北アイルランド）
- ▼【滞在共同制作／振付・構成・演出・出演】
「Want to Dance Dance Festival 2023」参加作品
フェスティバル期間：2023年4月21日～23日
滞在制作期間：2023年3月中旬～4月下旬 会場：未定（台湾・台北）
- ▼【ビデオダンス振付・演出】
・ハイブリットドキュメンタリープロジェクト「Ghost Genital」（制作：Flesh Film House）
【映画出演】
・東アジアの女性ダンサーおよびダンスカンパニーをテーマにした映画（制作：Flesh Film House）
※共に2024～2025年公開予定

出演者 | 今後の予定

- ▼【浅川奏瑛 出演】座・高円寺 劇場へ行こう！「小さな王子さま」
2023年9月 会場：座・高円寺1
- ▼【菊永沙紀 出演】第21回 日本女子体育大学 舞踊学専攻 卒業公演
2023年1月26日 会場：府中の森芸術劇場どりーむホール

協力：HandiHouse project、株式会社京浜テック、劇団唐ゼミ、シバイエンジン
運営協力：水口結、水澤茜嶺、古茂田梨乃、宮本蓮生、小泉れい子、近藤康弘、
吉岡ちかる、坂田有妃子

宣伝美術：丸目龍介
記録撮影（映像）：井出直樹 記録撮影（写真）：草本利枝

制作：林慶一
制作補佐：韓ヨルム、滝沢優子、末次杏子（ケダゴロ）、天満星南（ケダゴロ）

寄付募集

当団体をけしかけの熱いご支援を、どうぞよろしくお願ひします！



[芸劇 dance]

ケダゴロ

「ビコーズカズコース Because Kazcause」

東日本縦断 秋田・東京・静岡ツアー公演

振付・構成・演出：下島礼紗

出演：
伊藤勇太、木頃あかね、小泉沙織、中澤亜紀、下島礼紗（以上、ケダゴロ）
浅川奏瑛、大西薫、鹿野祥平（東京乾電池）、竹内春香、菊永沙紀

プロダクションマネージャー：齋藤亮介
音響：日影可奈子
照明：金英秀 照明オペレーター：野田彩乃
美術：新海雄大
舞台監督：齋藤亮介、齋藤元太

2023年

1月12日（木）～15日（日）

1月12日（木）19:30～
1月13日（金）14:00～／19:30～
1月14日（土）14:00～／18:00～
1月15日（日）15:00～

会場：東京芸術劇場 シアターイースト

主催：ケダゴロ
提携：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場
助成：公益財団法人 セゾン文化財団、アーツコミッション・ヨコハマ

公益財団法人セゾン文化財団



本日はご来場いただき誠にありがとうございます。

2年前、初演時のパンフレットに、私はこのようなコメントを書いていた。

1665年、物理学者アイザック・ニュートンは、ペストの流行で閉鎖された大学を去り、孤独の中で「万有引力の法則」などの大発見を次々と成し遂げた。ペスト禍を逃れて田舎に戻っていたわずか一年半の休暇中に、彼の主要な業績、及びび、証明がなされたという。彼は、この期間のことを“創造的休暇”と呼んだ。我々は今、世界中どこへも逃れることはできないことを身を持って感じているだろう。コロナは地球という重力の牢獄で生かされていることを我々に突きつけた。どこにいてもどこに逃げても、我々はいつも見えない力に引っ張られているのだ。

あれから2年、相変わらずのコロナめ。多くのニンゲンがこの地球の重力から逃れるように消えていった。直接的にウィルスに侵されたヒトだけではなく、そこから発生した孤独によって押しつぶされたヒトも多かっただろう。「地球という重力の牢獄で生かされている」私たちが、一生孤独と対峙しながら生きていく宿命にあることを、コロナは思い出させた。

「生きるも死ぬも地獄だ。だったら土食ってでも生きてやるよ。」
逃走中ホームレスになった福田和子は、このようなことを言ったそう。ヒトを殺め、一層引力が増していたであろうこの孤独な地球上で、彼女がこれほどまでに生（せい）へ拘ることができたのはなぜか。整形を繰り返し、いくつもの偽名を使い分けた彼女は、いつの間にか彼女自身の内部に集団を飼っていた。そうすることで彼女は孤独を飼い慣らしたのではないか。
逃亡計画の中で作られた一人一人のニンゲンは決して「偽り」ではなく、15年後に華やかに解散すると誓いを立てた紛れもないTEAM福田和子の一員だった。
そう、Because (we are) Kazcause。

<完全版>として再構築した本作。皆様の思考と共に変化し続ける作品でありたいと願っています。どうか、率直な意見を作品に跳ね返してください。<完全版>となった本作はまだ<完結>したわけではありません。次なる『ビコズカズコズ Because Kazcause』の誕生の為に力を貸してください。最後に、いつでもどこでも安く何度でも楽しめる YouTube や Netflix がある世の中で、この公演にお立ち合いいただいたお客様、ケダゴロ結成 10 年目を迎えるケダゴロに絶好の挑戦の場を与えてくださった東京芸術劇場の皆様、そして、「もはや再演じゃねえじゃん！」と言いながらも壮大な再構築に血を滲ませてくれたキャストとスタッフに、心から感謝申し上げます。

ケダゴロ主宰 下島礼紗

寄稿 | 犯罪者から創作のインスピレーションを得ることは、果たして不謹慎か

「良識」に跪いていては、芸術の魂はゆっくりと死んでいくばかりではないのか。タブーが存在するのは、タブーを必要とする社会があるからではないか。それならば、そのタブーが存在する「なぜ」から逃げてはならないのではないか――。オウム真理教や連合赤軍など、社会的事件に切り込み続ける下島礼紗とケダゴロの作品は、常に観る者に対する「問い」の連射である。そして自らも、他者の感覚をまるごと己のものとするダンスの特権を駆使し、丸裸の「人間」の手触りを模索し、規則や罰といった暫定的な社会のシステムを再解釈しようと目論む。多様な思考が渦を巻く壮大な感性の解放区が、舞台の上に創出される。彼らがそこでやろうとしていることは、実は限りなく「ジャーナリズム」なのではないかと私は思う。表現の自由というものは、真実を希求する心からしか生まれず、人生と引き換えにしても惜しくないと思えるほどの甘美な覚悟の先にしかない、きわめて脆く、強く、繊細な矜持なのだ。

吉田純子（朝日新聞編集委員）

フクダカズコの生い立ちと逃亡記録

本作はフクダカズコの生涯に関わる「実録」ではありません。彼女に関して残された記録と照らしてみれば、時には重なりあって見えるかもしれないし、時にはかけ離れたものに見えるかもしれません。記録として残された情報と本作の関りについては、みなさまが自由に受け止め、お楽しみいただきたいと思います。

下記、フクダカズコの人生の遍歴についてやや乱暴にまとめたものです。

生誕～青春期

1948年、愛媛県松山市に生まれる。幼少期に両親が離婚。以後、売春宿を経営する母親に育てられる。高校在学中、恋人を事故で亡くし、大きなショックを受ける。そのまま高校を中退。

刑務所での強姦

18歳となり、タイル工の男性と同棲を始めるものの、生活は困窮。ついには強盗事件を起こし、逮捕される。松山刑務所に収監されるが、その刑務所内にて強姦事件の被害者になる。これは、受刑者の暴力団幹部達が、看守を買収したことによって起こったもので、彼女を含め被害者たちは被害を訴えることもできなかった。

松山ホステス殺害事件

出所後の1982年8月19日（当時31歳）。愛媛県松山市のマンションにて、着物の帯締めを使って元同僚のホステスを絞殺。借金を断られ逆上した、とのちに供述しているが、事実は不明。当時の夫とともに被害者の金品・家財道具一式を運び去っていたため、強盗目的とも。遺体は松山市から20km離れた山中に遺棄。被害者の家族からの通報で、事件が発覚。強盗殺人事件として警察の捜査が開始される。

逃亡

犯行の4日後、松山を脱出し本州へ。ここから逃亡生活が始まる。金沢では、内縁の妻として2年以上老舗の和菓子屋女将に納まり、さらには自分の息子を甥っ子として呼び寄せ、一緒に生活していた（ちなみに彼女が女将になってから、店は繁盛していた）。また捜査官の接近に敏感で、裸足のまま自転車で逃げ出したこともあった。7回もの美容整形を繰り返し、いくつもの偽名を使い分け、国内20箇所以上の地を転々としながら逃げ続け、逃亡生活は約15年、5459日間に及んだ。

逮捕

公訴時効の成立が近づくと、メディアでも大きく報道されるようになり、一気に社会的な関心が高まった。顔写真や音声などが連日報道され、彼女が通っていた福井市内のおでん屋の店主や常連客が、正体に気づき始める（自分のニュースがテレビで流れると「あたし似てるでしょ？笑」と話していたらしい）。店主は、彼女が触ったマラカスやビール瓶を警察に提供。付着していた指紋が「福田和子」のものと同じしたため、時効21日前の1997年7月29日、逮捕。

無期懲役の判決が下され収監。2005年2月、所内にてくも膜下出血を起こし、同年3月10日入院先の病院にて脳梗塞により死亡。享年57歳。

作品を見る前に読むもよし。
見終わった後でもよし。
読まぬもよし。



ケダゴロ | 今後の予定

- ▼『ビコーズカズコース』静岡公演 <「Choreographers 2022」>
2023年3月2日（木） 会場：静岡市清水文化会館マリナート 小ホール

下島礼紗 | 今後の予定

- ▼【滞在共同制作／振付・構成・演出・出演】
Giuliano Campo × Shimojima Reisa
2023年2月1日～2月13日 会場：ロンドンデリー（北アイルランド）
- ▼【滞在共同制作／振付・構成・演出・出演】
「Want to Dance Dance Festival 2023」参加作品
フェスティバル期間：2023年4月21日～23日
滞在制作期間：2023年3月中旬～4月下旬 会場：未定（台湾・台北）
- ▼【ビデオダンス振付・演出】
・ハイブリットドキュメンタリープロジェクト「Ghost Genital」（制作：Flesh Film House）
【映画出演】
・東アジアの女性ダンサーおよびダンスカンパニーをテーマにした映画（制作：Flesh Film House）
※共に2024～2025年 公開予定

出演者 | 今後の予定

- ▼【浅川奏瑛 出演】座・高円寺 劇場へ行こう！「小さな王子さま」
2023年9月 会場：座・高円寺1
- ▼【菊永沙紀 出演】第21回 日本女子体育大学 舞踊学専攻 卒業公演
2023年1月26日 会場：府中の森芸術劇場どりーむホール

協力：HandiHouse project、株式会社京浜テック、劇団唐ゼミ、シバイエンジン
運営協力：水口結、水澤茜嶺、古茂田梨乃、宮本蓮生、小泉れい子、近藤康弘、
吉岡ちかる、坂田有妃子

宣伝美術：丸目龍介
記録撮影（映像）：井出直樹 記録撮影（写真）：草本利枝

制作：林 慶一
制作補佐：韓ヨルム、滝沢優子、末次杏子（ケダゴロ）、天満星南（ケダゴロ）

寄付募集

当団体をけしかけの熱いご支援を、どうぞよろしくお願ひします！



[芸劇 dance]

ケダゴロ

「ビコーズカズコース Because Kazcause」

東日本縦断 秋田・東京・静岡ツアー公演

振付・構成・演出：下島礼紗

出演：
伊藤勇太、木頃あかね、小泉沙織、中澤亜紀、下島礼紗（以上、ケダゴロ）
浅川奏瑛、大西薫、鹿野祥平（東京乾電池）、竹内春香、菊永沙紀

プロダクションマネージャー：齋藤亮介
音響：日影可奈子
照明：金 英秀 照明オペレーター：野田彩乃
美術：新海雄大
舞台監督：齋藤亮介、齋藤元太

2023年

1月12日（木）～15日（日）

1月12日（木）19:30～
1月13日（金）14:00～／19:30～
1月14日（土）14:00～／18:00～
1月15日（日）15:00～

会場：東京芸術劇場 シアターイースト

この公演の終演後は「討論会～観客 vs 下島礼紗～」を実施

終演後、ご覧になった観客のみならずと下島礼紗による「討論会」を実施します。「観客」と「作家」のスリリングな直接対決。配慮・遠慮不要のバトルモードで下島礼紗に討論を仕掛けてください。

★挙手のほか、会場ではオンラインフォームでも客席からのご発言を募ります → → →



主催：ケダゴロ
提携：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場
助成：公益財団法人 セゾン文化財団、アーツコミッション・ヨコハマ

公益財団法人セゾン文化財団

